「世界の疼痛治療薬市場2022年－2031年：治療薬別（抗けいれん薬、抗うつ薬、麻酔薬、非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDS）、オピオイド）」調査レポート（市場規模・動向・予測）を取り扱い開始しました

2022年10月11日
株式会社マーケットリサーチセンター

株式会社マーケットリサーチセンター（本社：東京都港区、世界の市場調査資料販売）では、「世界の疼痛治療薬市場2022年－2031年：治療薬別（抗けいれん薬、抗うつ薬、麻酔薬、非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDS）、オピオイド、抗片頭痛薬、その他）」調査資料の販売を2022年10月11日 に開始いたしました。疼痛治療薬市場規模、動向、予測、関連企業の情報などが盛り込まれています。

■レポートの種類：グローバル市場調査レポート
■レポートのタイトル：世界の疼痛治療薬市場2022年－2031年：治療薬別（抗けいれん薬、抗うつ薬、麻酔薬、非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDS）、オピオイド、抗片頭痛薬、その他）
■英文タイトル：Pain Management Therapeutics Market （Therapeutics: Anticonvulsants, Antidepressants, Anesthetics, Non-steroidal Anti-inflammatory Drugs （NSAIDS）, Opioids, Antimigraine Agents, and Other Non-narcotic Analgesics） - Global Industry Analysis, Size, Share, Growth, Trends, and Forecast, 2022-2031
■発刊日：2022年9月26日
■出版社：Transparency Market Research（トランスペアレンシーマーケットリサーチ）
■レポート形態：PDF（Eメールによる納品）

■主な掲載内容
慢性的な痛みに対する治療法は、その原因と同様に様々です。軽い痛みであれば、タイレノール

（アセトアミノフェン）などの市販薬や、アスピリン、イブプロフェン、ナプロキセンなどの非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDs）で緩和することが可能です。アセトアミノフェンもNSAIDsも、筋肉痛やこわばりによる痛みを和らげ、さらにNSAIDsは炎症（腫れや炎症）を抑えます。外用鎮痛剤には、クリーム、ローション、スプレーなどがあり、筋肉痛や関節炎の痛みや炎症を和らげるために皮膚に塗布されます。

慢性的な痛みに苦しむ患者の数は、世界中で絶えず増加しています。米国疾病対策予防センター（CDC）によると、2019年には、米国の成人の20.4%が慢性疼痛を有し、成人の7.4%が生活や仕事の活動が頻繁に制限される慢性疼痛を有しています。欧州疼痛連盟によると、欧州では約8000万人の成人が慢性疼痛に悩まされています。世界的ながんの罹患率の増加が、疼痛治療薬の需要増に寄与しています。これには、がん治療による痛みや、がん細胞が骨やその他の健康な体の部位に浸潤することで生じる痛みも含まれます。WHOの予測によると、2008年から2030年にかけて、世界のがん罹患率は約75%増加する見込みです。したがって、慢性的な痛みの発生が疼痛治療薬の使用を促し、それが世界市場を牽引しているのです。

医師は通常、痛みの初期段階で薬を処方し、その後、他の治療法を選択します。処方薬は曖昧な点がなく、簡単で費用対効果も高いためです。さらに、カイロプラクティック、鍼治療、指圧など、他の代替疼痛緩和方法の費用が高いことが、処方薬市場をさらに牽引しています。1回のセッションにかかる費用は、薬による患者の完全な治療疼痛緩和コースの費用と同じになる可能性があるからです。疼痛治療のための薬剤が利用可能であるという認識が広まったことで、他の治療法よりも疼痛治療薬の消費と受容が促進されています。したがって、入手しやすさ、使いやすさ、高い認知度、費用対効果、迅速な救済が、疼痛治療薬を他の治療法よりも好ましいものにしています。

治療法の観点からは、オピオイドセグメントが2021年の世界市場を支配しています。オピオイドは、中程度から重度の慢性疼痛を治療するための最も広く処方されている疼痛治療薬です。鎮痛剤によるケアは、がん患者に提供され、末期疾患に苦しむ患者の重度の常時疼痛を治療します。これらは一般的に、皮下、経口、または筋肉内の経路で投与されます。その他の投与経路としては、鼻腔内気腹、患者管理鎮痛法、トローチによる経皮および口腔粘膜ルートがあります。オピオイドは、強力なアゴニスト（フェンタニル、オキシモルフォン、モルヒネ）、軽度から中程度のアゴニスト（コデイン、ヒドロキシコドン）、受容体反応が混合したオピオイド（ブプレノフリン、ペンタゾシン）の3つに大別され、オピオイドのセグメントは、オキシコドン、ヒドロコドン、トラマドール、その他に分別されます。ヒドロコドンのサブセグメントは、乱用抑止製剤（ADF）の導入・採用により、2021年のオピオイドセグメントをリードしています。
一方、NSAIDs（非ステロイド性抗炎症薬）セグメントは、過去数十年の間に、有効性が証明され副作用が少なく、軽度から中程度の痛みを管理するためにNSAIDsの採用が増加したため、予測期間中に疼痛治療薬市場シェアを獲得すると予想されます。オピオイドとは異なり、NSAIDsは耐性や依存性を伴わないため、他の疼痛治療薬よりもNSAIDsを好む傾向が強まっています。

■レポートの詳細内容はこちら
https://www.marketresearch.co.jp/data1/pain-management-therapeutics-market-therapeutics-anticonvulsants-antidepressants-anesthetics/

■レポートに関するお問い合わせ・お申込みはこちら
https://www.marketresearch.co.jp/contacts/

■調査会社Transparency Market Research（トランスペアレンシーマーケットリサーチ）について

https://www.marketresearch.co.jp/Transparency－Market－Research/
株式会社マーケットリサーチセンターはTransparency Market Researchの日本での正規販売代理店です。

■株式会社マーケットリサーチセンターについて
https://www.marketresearch.jp
主な事業内容：市場調査レポート販売、市場調査サービス提供
本社住所：〒105－0004 東京都港区新橋1－18－21
TEL：03－6161－6097 FAX：03－6869－4797
マーケティング担当 marketing@marketresearch.co.jp

Generated by ぷれりりプレスリリース
https://www.prerele.com